

阿智村教育委員会 令和元年9月定例会会議録

- 会議日時 令和元年9月26日(木) 午後1時30分
- 会議場所 阿智村保健センター会議室
- 出席者 教育長：黒柳紀春 教育長職務代理：塚田紀昭
委員：原 彰彦 委員：熊谷 歩 委員：熊谷恒雄
【事務局】
教育次長：熊谷修一（全体進行）
保育園長：原 満 公民館兼社会教育係長：川上 悟
子育て支援室長：島岡佐喜子 学校教育係：村田浩一
学校教育専門主事：羽生武彦 学校教育専門主事：佐々木豊
学校教育専門主事：川上清宏 児童家庭相談主事：佐々木栄子
（欠席者 学校給食係長：石原哲成）

1 教育長あいさつ

9月議会初日に教育委員会の人事案件が同意された。塚田委員には16年の永きに亘ってご尽力いただいたがこの度ご勇退され、新たに原勝人さんが教育委員に任命された。この3月飯田西中学校長を最後に教員生活を辞められ、現在チャレンジゆうA c h iの事務局に勤務されている。私自身も9月30日が任期だが、再任の同意を得たので、今後3年間引き続きお世話になります。

9月の定例議会について報告させていただく。一般質問では原佐代子議員から保育の無償化について、白澤明議員から村内小学校の夏期プール開放状況について、決算の箇所海外研修について、林清子議員からは全国学力・学習状況調査の結果について質問があった。第一小でプール開放を一日も実施しなかった根拠が、環境省の熱中症予防サイトの暑さ指数を判断基準としていたことであつたわけで、今後は全小中学校に指数計を配備して判断基準を増やすとともに、熱中症予防対策にも活用したい。

令和2年度教育委員会予算について現段階での素案を示すので、各校で早めに検討し関係機関と調整していきたい。

（原委員）

保育園の芝生化について保育園の声はどうであったか。

（教育長）

昨年度、副園長を中心に村議も含めて高森町や喬木村に視察に行った。その後、副園長に主任も含めて業者との説明会を実施した。その中で若干の異議もあつたが、大筋では同意を得たと考えている。

(原委員)

反対意見にはどのようなものがあったか。

(教育長)

土の園庭を裸足で歩く方が身体が丈夫になる。子どもの健康に良い。芝生では土に絵を描いて遊ぶことができない、等の意見があった。

(原委員)

総合的にみて芝生の賛成が多かったという判断か。

(教育長)

そうです。実際芝生を植栽した後に反対の声は聞かれなかった。

(原委員)

新しい事業をする際に反対の意見も吸い上げながら教育委員会で総合的に考えていくわけだが、私たちもいろいろな意見があるということを知りながら一段よい方法を見つけるとよいと思っている。

(原委員)

阿智中クラブのチャレンジゆう A c h i への移管では事務局が中学校に移るといふことか。

(教育長)

それも試案には入っている。

(原委員)

前は考える期間をおいて、という説明だったがそれはどうなったのか。

(教育長)

チャレンジゆう A c h i の運営委員会で話がまとまった。予定どおり来年4月からは、加入を希望する現阿智中クラブはチャレンジゆう A c h i の新しいクラブに入ってもらふ。入る、入らない、は各クラブの判断による。放課後の部活動だけで十分だと考えるクラブはそのまま、もう少し練習したいクラブは保護者会として新阿智中クラブに加わり指導者を探すことになる。10月半ばくらいに説明会を開いてスムーズにスタートできるようにしたい。

(原委員)

当時、チャレンジゆう A c h i が引き受けることになると、財政的な負担が大きかった。できれば、チャレンジゆう A c h i は楽しさを基本に底辺を育てる場所で、さらに本格的にやりたい児童生徒には体協がしっかりと面倒を見ていく体制ができることがよいと思う。

(教育長)

説明会の結果については教育委員会に報告するのでご意見をいただきたい。

2 協議事項

(1) 令和元年度教育委員会関係諸事業中間報告について

・各係長より説明

(熊谷恒雄委員)

若駒アカデミーの2学年への拡大、小学校高学年放課後学習講座の導入ですが、3年生は受検対策ということであるが、2年生や高学年については受検対策や点を取るための学習ではなく、子どもたちが本来学ぶ力を伸ばしていく、魅力を伝えられるような講座を追求していただければありがたい。
(羽生学校教育専門主事)

制度も含めて考えているところだが、学力について伸びる力がついておらず、下位の子どもたちが多くて非常に厳しい。基盤になる力が弱いのではないかと強く感じる。自律的、自主的に学習に向かうための基礎となる力をつける場という方向で考えている。

(熊谷恒雄委員)

新放課後総合プランにについて今の状況は。

(子育て支援室長)

今までは、待機児童解消対策や放課後の子どもたちの居場所を主体に放課後児童支援だけでやってきたが、国全体として総合プランを考えて、放課後の子どもたちを学校の施設や環境を活用しながら、学童・遊び場・居場所づくりの総合的な対策をとるように指示がきている。学校との連携、学童保育との調整を進めて来年度スタートできるようにしたい。また、第二期子ども子育て支援事業計画にも盛り込んでいけるように考えている。

(原委員)

支援員や中間教室等手厚くてよいのだけれど、それでもあふれてしまう子どもたちがいる。以前、そのような子どもが多くいた学校があったが最近行ってみるとまったくいない。非常にスムーズに動いている。阿智村の学校は小規模で母集団が少ないのでその年々で学校・学級の様子が大きく変わってしまう。状況に合わせて臨機応変にやっていくことも必要ではないか。自由に支援ができる部分を踏まえてやっていく必要があるのではないか。

(塚田委員)

教育支援センターの開設について、センター長は誰なのか。

(教育長)

室長がセンター長です。

(塚田委員)

来年度は不登校対応に対する指導員を置きたいということか。教育上の諸問題についての相談窓口はどこか。

(子育て支援室長)

教育支援センターで行う。

(熊谷恒雄委員)

延長保育の時間について教えてほしい。また、智里東保育園が土砂災害対策地域に入っておりその場所では改築にならないということはどのあたりまでの方が承知しているのか。

(園長)

延長保育の時間はあふち保育園が朝7:30~8:00、夕方16:00~19:00まで、伍和と智里東が朝7:30~8:00、夕方16:00~18:00まで。小規模園については17:15まで勤務の職員が勤務時間中に行っている。希望があれば18:00まで対応したいが、今のところ希望がない。智里東保育園はハザードマップの対象地域になっており、教育委員会と防災担当は承知している。地域住民にはあまり知られていないと思う。担当段階では現地建て替えは難しいと判断している。

(塚田委員)

改築となれば何年後くらいを念頭に置いているのか。

(次長)

村全体に関わる話なので、教育委員会とすれば智里東保育園を改築したいということだが、村全体としてはこれからということになる。

(塚田委員)

保育園の防災計画に責任を持って行っている部署はどこか。

(園長)

実際には各園で行っている。

(塚田委員)

浪合保育園が心配だ。以前災害があった。村全体で考えないといけない。

(次長)

ハザードマップで、清内路小学校、浪合小学校が危険区域に入っている。そのため避難所に指定されていない。ハザードマップは各家庭に配布するように計画している。

(原委員)

社会教育主事を配置していくことについては賛成。充実させていくためには必要。総合型スポーツクラブのあり方に関して、阿智村では平成12年に独自のものを立ち上げた。阿智村では底辺を育てることがチャレンジゆうA c h iであり、その上でさらにやりたい者は社体が充実して育てていくことが望ましい。研究会とかあったら、こういう意見があったということを伝えてほしい。スポーツの得意な子どもたちを伸ばしていくことができるとありがたい。スタッフもいると思う。

(塚田委員)

栗矢の回り舞台の修繕について、文化財委員会と連携すればよいのではないか。

(熊谷恒雄委員)

保育園の延長の関係ですが、19時に遅れてくる親はいますか。

(園長)

今のところいません。

(熊谷恒雄委員)

子育ての意識の問題だと思うが19時は結構遅いと思う。要求があれば無条

件にサービスとして対応していくという考えだといけないと考えている。子どもが待っている、ということの大前提として親に接していただきたい。

- ・承認

(2) 後援申請について

①モラロジー生涯学習セミナー（公益財団法人モラロジー研究所）

- ・承認

3 報告・連絡事項

(1) 各係からの報告

- ・保育料の無償化に関する保護者説明会について（保育園係）

（熊谷恒雄委員）

主食について国の方針と村と違いが出ている。そのことについて親は理解したほうがいいと。そのあたりを明記したらどうか。

（教育長）

教育委員会の趣旨を保護者がきちんと理解できるような説明会にしたい。

- ・小規模校学校課題研究委員会より（学校教育係）

（原委員）

丁寧研究会を設け実績をつなげてきた。話し合いの中から村の人たちの意見を聞きながら決まってきたという、そういう方向をしっかりとって進めてもらいたい。

（熊谷恒雄委員）

複式の件ですが、いろいろな教師に触れるということが大事。ひとりの教師ではこの頃子ども達はどうにもならない。大規模校でも担任一人ではうまくコントロールできない状況がある。今の子ども達はいろいろな人格に触れることが少ない。小規模校で、教科担任制とか複式学級はもってこいの場ではないかと考える。方向は良いと思う。

（原委員）

いろいろな意見を聞くことも必要。

- ・学力向上推進委員会より（学校教育係）
- ・若駒アカデミー後期日程について（学校教育係）
- ・日本福祉大学自治体推薦について（総務係）

(2) 10月定例教育委員会の開催日について

10月18日（金）午後1時30分

4 教育委員退任あいさつ

（教育長）

塚田紀昭委員は、教育委員として4年間、教育委員長として9年間、現在の職務代理3年間、計16年間阿智村教育委員会のためにご尽力いただいた。阿智中学校の改築や浪合・清内路との統合に伴う諸課題、平谷からの中学生の受け

入れ等、さまざまな面でご尽力された。また、「私たちの阿智村」の編集委員長としても立派な冊子を制作し、村の子供たちに読まれている。このたび、ご勇退されるが、今後とも引き続き村の教育のためにご提案、ご助言をいただければ幸いに存じます。

(塚田委員)

16年という生まれた子供が高校生になる歳月であるが、私にとっては過ぎてしまえば長いと思わない。その間、教育委員の皆さん、事務局の皆さん、いろいろな方にお会いした。皆さん誠実に、まじめに取り組む方だと思いました。一緒に時間を過ごして嬉しかったと思っています。

私が教員をしてきた中で、戦前か戦後か曖昧でいけないが、中信か北信の山間部の村の校長先生が、貧しい中全部の子どもに茶道と短歌を教えた。心は高く、清らかでないといけないということで。そのような子どもたちは、心は綺麗な、尊いものは何か、いけないものは何か、ということがわかる人間として人生を生きたと考えます。素晴らしい校長先生だと思っておりました。

教育委員として、村の子ども達には赤石山の向こうに広がる世界に興味を持ってほしい。子ども達は働き者でなくてはいけない。汗を流して苦勞する子どもたちであり、勉強もやる、という「インクと汗の匂いのする子どもたち」であってほしい。全国学力・学習状況調査、生活実態調査の実態を見て、基本的な生活習慣をきちんとしなければいけないと。そのような中、あちっ子ライフで生活習慣の確立をしなければだめだと。しっかりした人間になるには、要求をなんでも聞いてやればよいということではなく、厳しくするところは厳しく、苦勞するところはするという意味で、小学校5年になったら全員通学合宿センターに行って過ごすことがよいと思った。布団を畳んでご飯も自分達で準備するというで始まった。

長野県教育はかつて他県の先生や教育界が視察に来るほど進歩的な県であったが、何処かに疑問があつてか司馬遼太郎の「街道をゆく」では、長野県にほとんど興味を示していない。司馬遼太郎が興味を示さない理由がわかる。一生懸命やっているが何かが違っているのではないか。会津の教育は「ならぬことはなりませぬ」ということで、島津は「郷中教育」、長州の松下村塾は一人一人の個性を大事にする。しっかりとした精神があつた。信州にはそれがなかった。

村の子ども達が、誠実に力をあわせて生きていける大人になっていけるように育ててもらえるよう願っている。

いろいろとありがとうございました。

(閉会 午後3時30分)

署名・捺印

教育長

教育委員